

第8回下野市総合計画審議会 会議録

日 時	平成27年11月5日(木) 午後1時15分～2時45分
場 所	下野市役所国分寺庁舎 304会議室
出席委員	中村祐司会長、磯辺香代委員、三橋明美委員、高山和典委員、川俣一由委員、鱒淵泰子委員、小幡洋子委員、高山信夫委員、大塚裕明委員、佐間田香委員、山口貴明委員、鈴木祐孝委員、前原保彦委員、小島恒夫委員、島田実委員
欠席委員	大島昌弘委員、塚原良子委員、高田憲一委員、江田俊夫委員、山口富男委員、永山茂夫委員、赤穂敏広委員
出席者	広瀬市長、板橋副市長、池澤教育長、山中総務部長、大橋産業振興部長、大橋建設水道部長、布袋田会計管理者、篠崎安全安心課長(市民生活部長代理)、山中社会福祉課長(健康福祉部長代理)、若林教育総務課長(教育次長代理)
事務局 傍聴者	星野総合政策課長、小谷野課長補佐、古口主幹、坂巻副主幹、館野主事 なし

○次第

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 議事
 - (1) 第5回会議録の確認について
 - (2) 第二次下野市総合計画基本構想・前期基本計画(案)の確定について
 - (3) 下野市人口ビジョン及び下野市まち・ひと・しごと創生総合戦略について
 - (4) その他
- 4 審議会から市長への答申
- 5 閉 会

○開会

(事務局) 定刻になりましたので、第8回下野市総合計画審議会を開会する。

○会長あいさつ

(事務局) 開会にあたり中村会長からごあいさつをお願いしたい。

(中村会長) 皆様こんにちは。お久しぶりです。良い天気が続いているが、日が暮れて夜になってくると冷えることから、秋から冬へ向かっていると感じる。この審議会は回数を重ねてきて、短い時間で資料を読み込んできた。今日が最終回であり、ここまで辿り着くことができたことに対して御礼を申し上げたい。今日は有終の美を飾るという意味で、承認を得るという重要な仕事が残っているので、皆様からご意見をいただきながら、承認をいただければと考えている。私は、

県内のいくつかの総合戦略や審議会に携わらせていただいていたが、それぞれの基礎自治体の個性や雰囲気、顔、審議会の進め方そのもの、地域資源などがある。それぞれにおいて、私がどれだけ貢献することができたか分からないが、終わった後にやって良かったと思える経験を積むことができ、ありがたいと思っている。本日は、審議をやや早めに終了することになるが、市長がいらっしゃることになっている。市長との意見交換においても、活発にご意見を出していただければと思っている。今日もよろしくお願いしたい。

○板橋副市長あいさつ

(事務局) 続いて庁内策定委員会の委員長である板橋副市長からごあいさつ申し上げます。

(板橋副市長) こんにちは。いよいよ総合計画審議会も第8回を迎え、最終段階となった。5月に開催した第1回目から本日まで、中村会長をはじめ委員の皆様には、お忙しい中ご協力いただき、深く感謝申し上げます。今年も残すところ約2か月となり、来年1月10日には、下野市は満10歳の誕生日を迎えることとなる。本日まで委員の皆様には、次なる下野市の発展のために、それに連なる総合計画、前期基本計画、地方創生総合戦略など、様々な計画づくりのご審議をいただいた。これまでの皆様のご支援に深く感謝申し上げます。本市の発展、そして市民の幸福度の向上のためにこの総合計画をつくってきたが、10年後の市民の幸福度を8割まで高める、特に女性の幸福度を85%にまで高めていきたい。幸福度を指標に掲げたのは、数ある自治体の中でそれほどないと思う。市民アンケートを踏まえて、そのような指標を掲げさせていただいたが、計画は着実に推進しなければならない。平成の大合併で、全国の自治体数は3200から1700と約半数になり、それぞれの自治体も合併後の10年間の歩みでは、新しい市や町の基盤づくりという大きな課題があったと思われる。私も市長の代わりに10周年記念事業で各自治体へ出席することがあるが、やはり大変だったという感想を漏らされていた。本市においても町政から市政へと変わり、特に財政基盤の強化に努力してきた。行財政改革といった努力の結果、県内トップクラスの財政健全性を誇り、特に将来負担比率は類似団体の中では全国においてもトップクラスであり、将来にわたるツケを子どもたちに残さないという状況になっている。今後とも、この財政健全性を維持しながら、着実なまちづくりに取り組んでいきたい。本日の審議会が最後となるので、総合計画の最終確認をしていただくことと、審議会から広瀬市長への答申をいただきたい。その後、広瀬市長にご意見を言っていただきたい。今後は、パブリックコメントや市民への説明会を行うと共に、議会の議決が必要なため上程していく予定です。

ある。委員の皆様には、市のまちづくりに関して、今後とも様々な場面でご協力をいただきたい。最後になったが、日々寒くなっていますのでご自愛いただき、挨拶とさせていただきます。

(中村会長) 始めに、会議成立、会議署名人の確認をする。本日は欠席が7名であるので会議は成立する。本日の会議署名人を名簿順で山口(貴)委員と鈴木委員にお願いします。

(中村会長) 次に、事務局より資料の確認を行う。

(事務局) 配布資料の確認をさせていただく。資料は本日配付させていただいた、会議次第、資料1「第二次下野市総合計画基本構想・前期基本計画(案)」、資料2「下野市人口ビジョン」、資料3「下野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」、資料4「下野市人口ビジョン(案)及び下野市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)に関するパブリックコメントの結果について」、参考資料1「答申書(写)」となっている。

○議事

(1) 第5回会議録の確認について

(中村会長) 会議録の確認を行う。第5回の会議録の確認となる。

(事務局) 会議録については事前にお配りし、ご確認いただいた。内容にかかる修正点は無しであったため、確定とさせていただく。

(2) 第二次下野市総合計画基本構想・前期基本計画(案)の確定について

(中村会長) それでは、次の議事に入っていきたい。前回の審議会で、将来像や重点プロジェクト、前期基本計画について、最終的な確認をさせていただいた。その流れから、今回は変更点について説明をお願いし、審議会として確定したいと考えている。それでは、事務局より説明をお願いしたい。

(事務局) 資料1のしもつけ重点プロジェクトの内容について、追加した部分があるので説明させていただく。

○54ページの街いきいきプロジェクトで、前回より「(仮称)三王山公園整備の推進」、「主要幹線道路ネットワーク・通学道路対策の推進」の2項目を追加。

○55ページの暮らしいきいきプロジェクトで、「通学路安全対策の推進」の追加。

○前回の会議資料から追加した表紙裏の市民憲章、市長あいさつ、目次などの全体構成について説明。

○目次に追加した付属資料の概要を説明。

(中村会長) 追加修正の内容について説明いただいた。皆さんから意見はあるか。写真などはこれからか。

(事務局) その通りである。

(中村会長) 57ページの事業内容について、どれが重点プロジェクトか分かる

ように、掲載の仕方が工夫されている。

(鈴木委員) 運用の方向性として、46ページに進行管理としてのPDCAサイクルが書かれているが、これを3ページの期間に落とし込んだとき、誰が、いつ、どのように実施するのか。

(事務局) 総合計画の進行管理では、PDCAサイクルを常に回し続ける。仕組みとして、行政評価と事務事業評価がある。それぞれを使いながら、市民が構成メンバーになっている組織を活用し、施策事業の進捗や評価、見直し、改善を進めていきたい。それを毎年度実施していく予定である。

(島田委員) 基本施策や重点項目について担当課が定められているが、実際にどのように各事業を実施したかについて公にされるのか。

(事務局) 3ページにあるように、この後、実施計画としてのアクションプランを定める。それらをもとに、行政評価や事務事業評価をさせていただく予定である。

(島田委員) その実施計画は公になるのか。

(事務局) 事務事業評価は内部評価であるが、一部の事業においては市民の方の組織の中で評価していただき公表となるが、すべての事務事業について市民への公表は考えていない。ただ、それぞれの所管における個別計画があり、その中で具体的かつ詳細な事務事業について進行管理をさせていただく。

(中村会長) 関心ある人は、知ることができるということか。

(事務局) 実施計画について単体では公表しないが、行政評価や事務事業評価の会議資料としての公表はある。

(磯部委員) 2ページの基本的な考え方の(3)と(4)を合わせて考えた時に、積極的に取り組んでいくと感じる書き方である。ただ、これらをする際に、財政的な裏付けがないと実行可能性を心配される方がいると思うので、土地の有効利用を広げていくにあたっては財政計画と一緒に考えていかないといけないと思うので、よろしくお願ひしたい。既存の計画の変更が生じる可能性もあるので、手堅くお願ひしたい。

(3) 下野市人口ビジョン及び下野市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

(中村会長) それでは、次の議事に入っていきたい。パブリックコメントの結果について事務局より説明をお願いしたい。

(事務局) 事務局より、下野市人口ビジョン(案)及び下野市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)に関するパブリックコメントの結果について説明。(資料4)

○下野市人口ビジョン及び下野市まち・ひと・しごと創生総合戦略については、10月30日に開催した庁内の地方創生推進本部会にて、パブリックコメントへの対応を協議し最終決定を行った。

○人口ビジョン（案）及び総合戦略（案）については、個人1名、法人1法人から合計5件の意見の提出があった。

○1番目の意見については、基本目標④安心な暮らしを守り幸せを実感できるまちをつくるの中の高齢者が元気で暮らせる体制づくりの中で掲載している認知症サポーター数の目標値に関してで、目標値4,000人としているところを6,000人に変更すべきとの意見である。意見に対する市の考え方としては、総合戦略における目標値設定については、個別計画等での目標値や見込み数を基礎としているため、現時点での目標値の設定はこのままとさせていただくが、当然個別計画の見直しや総合戦略の検証・見直しの際にはそれまでの実績や実績を基にした新たな目標値の設定が必要のため、意見については今後の目標値の設定にあたっての参考とさせていただくとしている。

○2番目から5番目の4項目については、基本目標①魅力的で安定した雇用を創出する部分に係る意見となっている。すべてに共通して言えることは、安定した雇用の創出や新規雇用の創出のためには、民間や政府系金融機関の取組が重要であり、それら金融機関の融資件数等も含めてKPIの設定をしたらどうかという意見となっている。意見に対する市の考え方としては、今回の総合戦略での目標値等は、総合計画や個別計画に基づく目標値を設定しており、市が主体となって取り組む施策・事業を中心にKPIの設定を行っているため、意見にあった各金融機関の取組件数をKPIとして設定することは想定していないとしている。しかし、総合戦略は毎年度検証、見直しを行っていくという観点から、新たな連携の中からKPIの設定等が必要になる可能性もあるため、意見については今後の参考とさせていただくとしている。

○パブリックコメントの結果については以上である。

○本日は、最終決定した人口ビジョンと総合戦略を資料2及び資料3として配布させていただいた。

○今後の予定としては、総合戦略の進捗管理については、毎年度7月頃に前年度の実績及び検証・見直しに向けた方針を総合計画審議会に報告させていただき、ご意見等いただく予定で、その後、12月頃に再度審議会を開催させていただき、いただいたご意見の対応、総合戦略の見直しや新年度の地方創生事業等をご報告し、再度ご意見等いただきたいと考えている。

(中村会長) 時間の都合上、本日は最終報告ということで受け止め、委員の皆様にもご了承いただきたい。

(4) その他

(中村会長) 今後のスケジュールについて事務局より説明をお願いしたい。

(事務局) 総合計画に関する今後のスケジュールについて説明。

○12月1日から28日を期間としてパブリックコメントを実施。

○12月12日(土)午後1時30分より、ゆうゆう館を会場に市民説明会を実施。

○2月末の議会に上程する予定。

○パブリックコメント等により大幅な修正が必要となった場合は、再度審議会を開催

する予定だが、軽微な修正については中村会長との協議によって修正することで委員の皆様にはご了承いただきたい。

○国土利用計画下野市計画（第二次）（案）は、県との協議中である。11月中旬に県から意見が出される予定となっており、その後内容を調整し、1月にパブリックコメント、2月末の議会で報告する予定となっている。

○審議会から市長への答申

（事務局） 中村会長より答申をお願いする。

[中村会長より広瀬市長に答申書の提出]

（事務局） 広瀬市長よりお礼のごあいさつを申し上げる。

（広瀬市長） 皆さんこんにちは。5月の第1回に委嘱状をお渡しさせていただいて以来、本日が8回目ということで、第二次下野市総合計画の答申をいただき、大変ありがとうございました。様々な感想やご意見をいただいたということを副市長から伺った。市制10周年という、下野市が次のステップへと進む節目に際して、改めて下野市を、下野市に住んでいる人を見つめ直してもらい、住んでよかったと思えるまちづくりのための計画が、皆様のお力添えのおかげで作成することができた。住んでよかったと思えると同時に、下野市においでよ、と呼びかけることができるほどに胸を張れるまちづくり、そして、子どもたちに未来を託していけるようなまちづくりを頑張っていきたいと考えている。本日いただいた答申と共に、この計画を現実にするための努力をしていきたいと考えているので、これからもお力添えをいただき、共にその姿を、その形をしっかりとしたものにしていくようお願い申し上げたい。

（事務局） ご案内の通り、市長を交えての意見交換会を実施します。進行は中村会長によろしくお願いしたい。

（中村会長） 貴重な機会と思うので、委員の皆様から審議会における全体的な感想や、今後の下野市のまちづくりについてご意見やご質問をしていただきたい。

（島田委員） 総合計画において下野市の方向性を決めて示された。協働という言葉が出てくることがあるが、行政の場合はリーダーシップが必要であることが多い。この計画を実のあるものにするために、ぜひ市長がリーダーシップをもって計画を実行していただきたい。

（山口（貴）委員） 貴重な機会に参加させていただき、とても勉強になった。市制10年と同じく、私がかかわっているかかし祭りも10年目を迎える。お神輿の若手の担ぎ手の団体も10年目である。又、12月6日にはきらら館でイベントを行う。なぜ、そこまで仕事以外にいろいろやっているのかと言われることがある。かつて、上京し

て東京の学校に行った際にどこから来たのかと尋ねられて、宇都宮の方と答えた。その出来事がずっと引っかかっていた。当時の石橋は首都圏では伝わらないと思い、そのように答えたのだろうが、下野市が胸を張って言えるようなまちにしていきたい。我々もがんばるので、皆でやっていきたい。

(前原委員)

どの自治体でも助成金制度が減ってきている。市民会議でお金を集めなければならないと思っていて、宇都宮に県の経済同友会で支援事業をやっている、今年度は10万円の支援をいただいた。その他にも調べたところ、7つか8つほどあると思われる。国立青少年教育振興機構の中に子育ての支援制度をやっている子どもゆめ基金や、キリンビール、JTなど様々なところでやっている。問い合わせたところ、行政の方へ資料を送っていると言われた。行政のどこに尋ねても分からないとのことだったので、そのような情報や窓口を一元化することはできないか。ちなみに、今年度は県の経済同友会から支援を受けたが、県内の48団体ほどから申請があったそうだが、下野市は申請件数が1件だけだったそうである。他には、少人数の団体で申請された方もいて、市民会館で紹介されたとのことであった。情報さえあれば、利用したい人もいるはずである。

(中村会長)

下野市の所管ではないが、情報を提供してほしいという意見だということ。

(広瀬市長)

各委員さんからのお話を伺い、島田委員からはリーダーシップに関するお話があったが、絵に描いた餅にならないようにがんばりたい。山口委員は、近所で一生懸命にがんばっていただいているありがたい。このように、若い人が動いてくれることはありがたい。まちを変えるには、よそと自分のまちを比べることのできる人、若いくらいの気持ちになって動くことのできる人、損得を考えずにやっていけるような人といった熱意ある人が大切である。前原委員から情報に関する意見があったが、ゆめ基金は幼稚園や諸団体が使っているようで、担当部局は知っているのだと思われる。このような情報を一元化して、市民の皆様へお伝えできるようなシステムを考えていきたい。

(前原委員)

情報があれば伝わるようなシステムがあれば大変助かる。

(小島委員)

安倍首相がオバマアメリカ大統領に贈った獺祭というお酒があり下野市でも生産されている。獺祭そのものは、パリやロンドンへ進出していて、経営がすばらしい。一番高いものであると、4合瓶で32,700円、1升瓶で81,000円の酒である。TPPで農業が揺れる中で、先進的な経営をされている農業が下野市にある。一部の市民は知っていると思うが、あまり知られていないと思う。うまく行政がPRする仕組みがあってもよいと思う。

- (鈴木委員) 10月初旬に瀬祭を見に行った。普通のお米の3倍で売れている。全世界にこれを売り込みたいと考えている。観光事業の中に取り込もうと考えている。これは市の財産であり、放っておいてはいけない。
- (広瀬市長) 瀬祭については、議会から承認をいただいている。山田錦への補助制度について考えている。下野市では道の駅で販売している。栃木県でも2店舗ほどしか扱っていない。ただ、数量がない。山田錦の方は、旭酒造が全量買い受けする約束の元で動いていて、横流しができない。そのような農家を育てながら、栃木県や下野市で山田錦を作っていきたい。さらに品質を上げて拡大していきたい。又、これと関連付けて、本市の野菜をアピールするための施策の展開も今やっている。これらも東京方面に知らせることと、地元の人に再度確認してもらうことを行っている。行政は宣伝が下手であり、皆様の口からも言っていただくいたりすると良いと思うので、よろしくお願ひしたい。下野市のポテンシャルは高いということを再度確認し、宣伝していきたい。
- (島田委員) 高齢者はなかなか外出しない状況にあるが、公民館での歴史物については高齢者の男性が来られる。下野市は国分寺や薬師寺など古代の歴史がある。下野市の文化を伸ばしていき、高齢者が外に出ていくような取り組みをして欲しい。
- (佐間田委員) 私は、仕事で在宅助産師をしており日常は小児科で働いている。仕事柄、若いお母さんと話すことも多く、私も子どもが4人いる。そのような中で、いくつかお願ひがある。1つは、幼稚園が認定こども園になるとよいのではないかという意見をもっていたが、実際に認定こども園になると1月5万円かかるそうであり、働いたパート代のお金が全てそこにいってしまう。2つは、私の子どもは、大学は市外に進学して、そのまま戻ってこないと言っていた。理由を聞くと、下野市にはショッピングモールやアミューズメントなどの魅力がないことや、働くところがないこと、下野市ならではの魅力がないことを挙げていた。他の市では行われていないことをしないと、人が集まってこないのではないか。今の状況で、出生率の目標を立てたところで達成できるかと、疑問に感じながら審議会に出席していた。3つは、幸せ実感都市とあるが、小さなお子さんを抱えたお母さんへ家庭訪問に伺うことがある。お金がないと幸せはなかなか感じられないと言われる一方で、お金があったからと言って幸せとは限らないと感じる。そういった中で幸せをどのように実現していくのか疑問に感じた。
- (広瀬市長) 認定こども園の問題は、所得に応じて設定されているところがあり、難しい課題である。保育費をすべて無料にすることも選択肢としてはあるが、その施策を実行するためには検討しなければな

らないこともある。5年10年はあっという間に過ぎていくので、手遅れにならないように取り組みを進めていかななくてはならない。中学生以下の医療費無料も取り組んでいるが、コンビニ受診への懸念や費用の問題など様々な議論があった。その中で感じたことは、命にかかわるものは自治体の競争としてやるのではなく、国としてやらなければならないと思った。働く場所と住まいが一緒にあることは一番良いことだと思う。都市マスタープランの見直しを通して、働く場所も誘致しながら、自然は住環境も大切にするとバランスを取りつつ、都心への通勤圏内に下野市があることを強みとしていきたい。一度下野市を出て、他地域を見比べてもらう中において、下野市に戻ってきてもらえるようにしていきたい。できるところはできるだけ早く動きたい。

○閉会

(事務局)

本日の審議会の会議録は、完成次第郵送させていただく。署名委員の方々から署名をいただき、その後中村会長の署名をいただき確定としたい。以上をもって第8回下野市総合計画審議会を閉会する。

以上

会議の経過を記載し、その相違がないことを証するためにここに署名する。

会 長

署名委員

署名委員